

時間と時刻の授業アイデア

1. 音と動作で時間と時刻の区別をつける

生活の中では「今の時間は9時半です」というように、時間と時刻の区別をしていません。そのため、算数の用語と生活の用語にずれが生じ、わかりづらくなるのです。3年生では、まず時間と時刻の区別をできるようにします。

時間は「時の間」、時刻は「時を刻む」と漢字の意味から区別させてもいいでしょう。国語辞典を使うのも良い方法です。しかし、まだ3年生。ここは擬音化と動作化で時間と時刻の区別をさせましょう。時刻は「ピッ!」と指で押すような動作をします。「この瞬間!」と指で押します。時間は時刻から時刻の間を「ピィィィー、ピッ!」と左右の手の指で時間差をつけて押す動作をします。音と動作で量を感じ、時間と時刻の区別をつけるのです。

2. 時計の目盛りから帯時計への変化を見せる

昨日、今日、明日の時間の流れを視覚的にとらえ、時刻の意味をつかませるためには、1日の時間の流れを数直線上に表した図が適しています。

しかし数直線を突然示しても、時計とのつながりが子どもには見えにくいものです。そんなときは時計の形から帯時計に変化する算数グッズを作ります。1辺5cmの正方形に切った工作用紙27枚をホチキスでつなぎ合わせます。授業の始まる前に黒板に強力磁

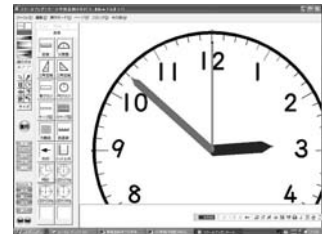


石で時計のようにはっておきます。この時計の目盛りを開いていく様子子どもたちに見せることが、時計の数字と数直線の目盛りをつなげることになるのです。

3. 時間の単位(日、時、分、秒)を意識して数える

時間の単位は10進法ではありません。ですから、時計の目盛りを数えたり、模型の時計の針を動かしたりしながら数える活動を意識して取り入れていきます。数を数えやすくするために、時計には1から12までの数字で表していますが、これがかえってわかりにくくさせています。わからなくなったら、実物などを使って数える活動を取り入れていきます。

実物は小さいので目盛りを数えるのが難しいときがあります。そんなときにはパソコンを使って、部分的に拡大してプロジェクターで投影して目盛りを読むのもいい方法です。写真は内田洋行のスクールプレゼンターを使用しています。



4. 活動させて時間の量感を育てる

子どもたちの時間の感覚を育てたいというときには、目をつぶっての黙想タイムをとることをお勧めします。先生の「スタート!」の合図で目をつぶり、1分たったと思ったところで手を挙げます。1分=60秒の感覚を育てながら、学級を落ち着いた雰囲気にもさせる活動です。

他にも50m走のタイムを計ったり、家庭学習の時間を記録して1週間の合計を出したりしていく活動などを通して、量感を育てていくことができます。